

# データで見る 村長選挙

告示 10/6(木)  
投票開票 10/16(日)

## 有権者のデータ

全体の投票率	70.84%
有権者数	5,236人
投票者数	3,709人
男女別投票率	男性70.39%・女性71.29%
期日前投票者数	2,322人
年代別投票率・最高	70～74歳 91.40%
年代別投票率・最低	20～24歳 39.49%

行政区	有権者数	投票者数	投票率
1 草野	547人	379人	69.29%
2 深谷	277人	188人	67.87%
3 伊丹沢	357人	234人	65.55%
4 関沢	259人	176人	67.95%
5 小宮	352人	265人	75.28%
6 八木沢・芦原	135人	100人	74.07%
7 大倉	112人	88人	78.57%
8 佐須	199人	163人	81.91%
9 宮内	232人	173人	74.57%
10 飯樋町	342人	231人	67.54%
11 前田・八和木	279人	209人	74.91%
12 大久保・外内	245人	151人	61.63%
13 上飯樋	442人	324人	73.30%
14 比曾	284人	184人	64.79%
15 長泥	228人	147人	64.47%
16 蕨平	153人	125人	81.70%
17 関根・松塚	163人	121人	74.23%
18 白石	240人	171人	71.25%
19 前田	195人	138人	70.77%
20 二枚橋・須萱	195人	142人	72.82%

全村避難が続く中で実施された今回の村長選挙は、復興にかかるさまざまな政策の継続か、見直しかを有権者が選択する選挙となりました。

借り上げ住宅避難者へ直接語る機会を設けることは非常に困難な状況でした。前回選挙戦となった平成16年の村長選で90%を越えていた投票率は、70%台に留まり、避難後平成25年に行われた村議会議員選挙の73.03%もわずかに下回りました。

## 村議会議員 補欠選挙

当選者紹介  
相良 弘 (初当選)



白石 69歳 無職

〔略歴〕

村森林組合代表理事組合長  
福島県森林組合連合会監事

村長選挙と同じ10月6日告示の村議会議員補欠選挙は、欠員2に対して立候補者が1名のみであったため、無投票となりました。  
これにより、飯舘村議会の在職議員は9名となりました。

## 菅野典雄村長に聞く これからの新しい村づくり

「選挙を経て有権者の信任を得た形となりましたが。」

「避難指示解除を5か月後にひかえ、村政の舵取りを任せていただいた。その責任の重さに押しつぶされそうですが、全力投球で村の再生に努めます。」

「避難指示解除後の村づくりをどのように進めていきますか。」

「一つには、一人ひとりが人生を自分の考えで切り拓いていけるよう、「これからどうしたいですか」というところに耳を傾け、行政としてよりよい生活環境を整えていくことが大切だと考えます。」

「また村も、現実を受け止めた上で、新しい形の村づくりを進めます。村外に住む村民にも、外部の人にもどんどん関わってもらう、ネットワークを生かした村づくりを実現したいです。」

「そして、学校をどのような形にして戻していくかが、村にとってとても大切な課題です。全力で取り組みたいです。」

「村としては、一人でも多くの村民に戻っていただけるよう、産業・教育・福祉の充実を加速度的に進めていきます。」

「避難指示解除の時期等をめぐり意見が対立した佐藤候補にも多くの得票がありました。この声にはどのように応えますか。」

「放射能の被害によるこの避難には、百人百様に、不安との闘いがあります。それが他の災害とは全く違うところ。そうした多くの声の最大公約数となるところを見つけないと、どこかで選択をして、前進していかなければなりません。不安を少しでも和らげることができるよう、長期の政策が必要で、村民一人ひとりが、このつらい被災を乗り越えて、自らを自立に向けていけるよう、国には制度の切り替えを引き続き求めていきます。」

「それぞれが身の振り方を考える時期にきて、不安が票に表れたとも考えられます。したがって

「村はこれまで以上に、村民のそうした思いに向き合うことが大切だと考えています。」

「避難指示解除で除染が終了するのではという不安も聞かれます。」

「大変な事故であり国の責任は免れないが、長期的な除染には村が主体となって取り組むべきです。例えば里山再生交付金を創設してもらうなどして国から事業を引き継ぎ、地力回復や農業・林業再生に、村民と共に取り組むことなども考えられます。」

「帰還困難区域の長泥については、11月6日に国が開く説明会

を受けて、さらに住民と話し合い、国との交渉に臨みたい。」

「今後村の魅力を生かしていくために大切なことは何でしょうか。」

「ハードだけ、ソフトだけではなく、どう組み合わせるかが、その手法が問われます。バランス感覚が大切だと思います。」

「また、この被災で多くの支援・応援をいただいた村として、相手の気持ちになって考える、相手の立場にも思いをおくという村の良さに、再び光を当てたい。「までの村に、心のシェアを」。心の分かち合いが、この被災の難しさを乗り越える力になると信じています。」



菅野典雄村長